



今月号では、小児科及び消化器内科の救急体制について特集いたします。

小児科

小児科部長
川村 信明

当科ではこれまで地域の医療機関との連携を積極的に進めて参りました。日頃は皆様から多くの患者さんをご紹介いただき誠に感謝申し上げます。

地域連携を有効に機能させるためには、病棟でのベッド運用を効率的に行う必要がありますが、小児病棟ではこれまでは4床室や6床室が主体のため調整が困難なこともありました。そこで、今回6床室をなくして個室増床のための改修工事を行い、4月から運用を開始できることになりました。今後は、感染症や重症患者さんの受け入れに関して以前よりも柔軟に対応できると思っておりますので、引き続きよろしくご願ひ致します。

地域医療機関からの入院依頼に関しては、これまでも時間外入院を出来る限り受け入れるようにしてきましたが、今後はさらにその体制の充実を図っていきます。皆様の診療時間のほぼすべてをカバーできるように、平日は20:00まで、土曜日・日曜日・祝日は9:00～19:00の時間帯は小児科当番医が直接対応いたしますので、下記の要領でご連絡いただければ幸いです。

●平日の当科診療時間内に入院が必要な患者さんについては、午前・午後(17:00まで)とも小児科外来に直接連絡して頂ければ、これまで同様に対応させていただきます。

●平日時間外(20:00まで)および土曜日・日曜日・祝日(9:00～19:00)でも入院依頼には対応いたします。連絡方法は以下の通りです。

病院代表電話(011-726-2211)に連絡していただき、電話交換手を通して小児科当番医に直接連絡していただければ対応いたします。

小児2次救急患者への対応については、これまでも札幌市内の小児2次救急当番病院として年間50～60日程度協力してきました。今後はさらに2次救急病院のバックアップ体制の整備も進めており、札幌市内の小児2次救急体制をさらに充実させたいと考えております。また、当院救命救急センターとも密接に連携して小児3次救急患者のバックアップも行っており、その後方ベッドとしても機能しています。当院再来患者さんの時間外外来に関しては、当院当直医に対して小児科当番医が確実にバックアップする体制を整えています。



【小児科病棟】

当科ではおおよそ以上のような体制で小児救急患者の受け入れを行っておりますので、今後ともよろしくご願ひ申し上げます。

消化器内科

消化器内科部長
西川 秀司

当科は平成25年4月から職員の異動と、後期研修医1名の増員により、病院当直業務を行うメンバーが6名となりました。

それに伴いある程度の体制が整い、各部署の多大な協力のもと、平成25年10月から札幌市の消化器内科2次救急当番病院として参加させてもらうことになりました。

看護師は2次救急当番日には通常当直の2名に、内視鏡部門の看護師が1名加わり、計3名で対応しております。緊急内視鏡、緊急胆道ドレナージなどの緊急処置に対し、すぐに治療のできる体制をとっております。

検査部は通常時間外では測定不可の項目を2次救急当番日に限り測定可能となっております。

放射線部は通常の1名体制に加え、その他に1名の待機をしています。

救命救急センターは当番日には当科兼任の高氏修平が当直として、万全のバックアップ体制をひいております。胆管炎、敗血症ショックの患者さん、重症膵炎の患者さんなどは全身状態が改善するまで救命救急センター管理で、その後当科の一般病棟への転科となります。

外科、麻酔科も緊急手術に備えており、手術の必要な場合には緊急手術を施行しています。

当科の2次救急対応医師は、医長の工藤俊彦、副医長の中村路夫、小野雄司、医師の藤田與茂、小池祐太であり、このうち1名と後期研修医重沢拓を加えた2名体制を整えています。

2次救急体制は、平日17:00～翌朝9:00まで対応しております。各部署が協力し、2次救急当番を行っていきたくて考えておりますので、地域の医療機関の皆様のご理解、ご協力をよろしくご願ひ申し上げます。



【内視鏡室の様子】